

# 書式設定

---

書式設定についてのトレーニングへようこそ。

付属の練習ワークブックをダウンロードして、実際に Tableau を操作してみてください。

## マークカードのオプション

マークカードには、色、サイズ、マークタイプなど多くのオプションがあります。これらのシェルフにフィールドがなくても、シェルフをクリックするとそのプロパティを調整できます。たとえばこのビューでは、サイズで表示されているものがなくても、マークのサイズを大きくすることができます。色シェルフでは色を調整しますが、枠線なども調整できます。

## ラベル

[ラベル] には多くのオプションがあるので、クリックして開いてみましょう。このボックスをチェックするとラベルが表示されます。ツールバーにある [ラベル] ボタンをクリックするのと同じです。

表示されたラベルを、好みに応じて変更することができます。

[ラベル] シェルフにドラッグすることで、フィールドがラベルに追加され、テキストオプションが使えるようになります。横の省略記号をクリックすると、テキストエディターが表示されます。これは高機能なエディターウィンドウですが、使用できるフィールドは、[ラベル] シェルフに追加したフィールドだけです。

ラベルは、ハイライトなど特定のアクションのほか、最大値/最小値といった特定のポイントに表示でき、表全体にも、ペイン、ラインごとなどにも適用できます。ビュー内の特定のマークラベルの表示と非表示を切り替えることもできます。ポイントを右クリックし、[マークラベル] をクリックして、希望の動作、たとえば [常に表示] を選択します。

大抵の場合、ラベルの表示にはスペース上の制約があるので、情報を追加したい場合は、注釈やツールヒントがよく使われます。

## 注釈

注釈とは、特定のマークやポイント、エリアについて情報を追加/表示するためのテキストボックスです。

- マーク注釈は、ビューにどんな変更が加えられても、マークのそばに表示されます。
- ポイント注釈およびエリア注釈は、マークの位置とは関係なく、ビュー上の位置に対して追加されます。ビューのサイズが変われば、相対的にその位置も移動します。
- 注釈を追加するには、右クリックして [注釈] を選択します。ここでは [マーク] を選択します。
- ラベルと同様、注釈にも動的入力としてフィールドを追加することができます。
- サイズ、位置、書式設定の調節も行えます。
  - 注釈をクリックすると、サイズと位置を調節できるハンドルが表示されます。
  - 注釈のテキストの書式設定を行うには、テキストをダブルクリックしてエディターを開きます。右クリックして [編集] を選択することもできます。
  - 注釈の書式を設定するには、右クリックして [書式設定] を選択します。
    - ボックスは、色々な方法で調整できます。
    - 線も調整可能です。

[編集] と [書式設定] は、どちらもビジュアルについてのアクションですが、調節する対象が異なります。通常、[編集] では内容、[書式設定] ではレイアウトを調節します。特定の要素を見つけるのが難しく、[編集] と [書式設定] が両方とも利用可能な場合は、もう一方の場所をチェックしてみてください。

## ツールヒント

マークをクリックまたはカーソルを置くと、追加情報を表示するツールヒントは、とても便利な分析ツールです。このツールヒントはカスタマイズできます。

- この例では、多くの情報を表示するために細かく書式設定したツールヒントを紹介します。
- ビューのフィールドであれば、どれでもツールヒントに表示できます。ビューに含まれないフィールドは、ツールヒントシェルフに追加することができます。
  - たとえば、「このマークにあるレコードは」とタイプし
  - レコード数を挿入し、
  - 「...件です」とタイプします。
- コマンドボタンが不要な場合は、このチェックボックスで非表示に切り替えることができます。

ツールヒントは分析ツールとして軽視されがちですが、多くの情報をコンパクトに伝えることができる便利な機能です。

## ビューの特定部分の書式設定

ビューにある要素の多くは、個別に書式設定を行えます。ビューの数値、凡例、その他の部分の書式設定が可能かどうかは、右クリックするかメニューを開いて、[書式設定] オプションがあるかどうかで判断できます。

- たとえば、フィルターの上にカーソルを当てると、メニューオプションがヘッダーに表示されます。
  - インタラクティブフィルターのレイアウト要素の多くは、このメニューから直接操作することができます。
  - ただし、[フィルターの書式設定] をクリックした場合は、
  - 書式設定ペインが開き、[フォント]、[配置] などの様々なオプションが表示されます。表示されるオプションは、書式設定を行う対象によって異なります。

## 軸の編集と書式設定

軸のレイアウトを調節するには、右クリックして [軸の編集] を選択します。

- このダイアログでは、範囲、目盛り、タイトルなどが操作できます。
- 範囲を編集して、115 までと設定してみましょう。
- 目盛りは 50 ユニットごとにします。
- 軸に戻ると、このように変化します。
- また、このようにピンアイコンが表示され、この軸が自動ではなくなったことを示します。
  - ダブルクリックすると、このダイアログが再表示されます。

[配送料] の前にディメンション、たとえば [注文の優先度] を追加すると、ディメンションごとに軸が存在するようになります。

- ここで右クリックして [軸の編集] を選択すると、
  - [すべての行または列の軸範囲を統一]、
  - [軸範囲を独立させる] のオプションが、もう少し意味を持つようになります。
  - 独立を選択すると、Tableau は自動的に軸をペインごとにスケールし直します。

軸を完全に非表示にするには、軸を右クリックして [ヘッダーの表示] のチェックを外します。

軸を右クリックして [書式設定] を選択すると、書式設定ペインが開きます。

- チェックマークの外観、フォントや配置などのビジュアル要素を調節できます。
- 利益の軸をもう一度表示して、
- 1本の軸をクリックしてもう1本をクリックすると、書式設定ペインがクリックしたところを反映していることがわかります。ここは目盛りがグリーンで、ここは既定になっています。

書式設定ペインは各タブで同様に表示されており、上部の [x] をクリックすると閉じます。

## マップレイヤー

地図を操作する際には、地図に固有の書式設定オプションがあります。

- この地図上の円は、マークカードで書式設定を行いました。
- ただし、基本の地図そのものの書式設定を行う場合は、[マップ] メニューから [マップレイヤー] を選択してください。
  - ここで、地図のスタイルとして [暗い]、[薄い]、[標準] を選択できます。
  - また [ウォッシュアウト] を調整したり、
  - 境界や名前などのマップレイヤーを設定することもできます。
    - [街路/高速道路] など、地図の縮尺が一定より大きい場合にのみ有効になるオプションもあります。
  - 頻繁に使用したいマップレイヤーがある場合は、[既定に設定] をクリックします。この設定が、これ以降のワークブックで新しく地図を作成すると、既定として適用されるようになります。

## まとめ

書式設定のトレーニングビデオをご視聴いただき、ありがとうございます。書式設定の詳細については、このセクションの「書式設定ペイン」のトレーニングをご覧ください。